

AIによるテキストマイニング

例1 スティーブ・ジョブズ

例2 ジョー・バイデン

例3 ドナルド・トランプ

(S) スティーブ・ジョブズ スピーチ 2005年米スタンフォード大学卒業式

“世界でもっとも優秀な大学の卒業式に同席できて光栄です。私は大学を卒業したことはありません。実のところ、きょうが人生でもっとも大学卒業に近づいた日です。本日は自分が生きてきた経験から、3つの話をさせていただきます。たいしたことではない。たった3つです。

まずは、点と点をつなげる、ということです。

私はリード大学をたった半年で退学したのですが、本当に学校を去るまでの1年半は大学に居座り続けたのです。ではなぜ、学校をやめたのでしょうか。

私が生まれる前、生みの母は未婚の大学院生でした。母は決心し、私を養子に出すことにしたのです。母は私を産んだらぜひとも、だれかきちんと大学院を出た人に引き取ってほしいと考え、ある弁護士夫婦との養子縁組が決まったのです。ところが、この夫婦は間際になって女の子をほしいと言いだした。こうして育ての親となった私の両親のところに深夜、電話がかかってきたのです。

「思いがけず、養子にできる男の子が生まれたのですが、引き取る気はありますか」と。両親は「もちろん」と答えた。生みの母は、後々、養子縁組の書類にサインするのを拒否したそうです。私の母は大卒ではないし、父に至っては高校も出ていないからです。実の母は、両親が僕を必ず大学に行かせると約束したため、数カ月後によくサインに応じたのです。

そして17年後、私は本当に大学に通うことになった。ところが、スタンフォード並みに学費が高い大学に入ってしまったばかりに、労働者階級の両親は蓄えのすべてを学費に注ぎ込むことになってしまいました。

そして半年後、僕はそこまで犠牲を払って大学に通う価値が見いだせなくなってしまったのです。当時は人生で何をしたらいいのかわからなかったし、大学に通ってもやりたいことが見つかるとはとても思えなかった。私は、両親が一生かけて蓄えたお金をひたすら浪費しているだけでした。私は退学を決めました。何とかなると思ったのです。

多少は迷いましたが、今振り返ると、自分が人生で下したもっとも正しい判断だったと思います。退学を決めたことで、興味もない授業を受ける必要がなくなった。そして、おもしろそうな授業に潜り込んだのです。

とはいえ、いい話ばかりではなかったです。私は寮の部屋もなく、友達の部屋の床の上で寝起きしました。食

食べ物を買うために、コカ・コーラの瓶を店に返し、5セントをかき集めたりもしました。温かい食べ物にありつこうと、毎週日曜日は7マイル先にあるクリシュナ寺院に徒歩で通ったものです。

それでも本当に楽しい日々でした。自分の興味の赴くままに潜り込んだ講義で得た知識は、のちにかけてがえがないものになりました。たとえば、リード大では当時、全米でおそらくもっとも優れたカリグラフィの講義を受けることができました。

キャンパス中に貼られているポスターや棚のラベルは手書きの美しいカリグラフィで彩られていたのです。退学を決めて必須の授業を受ける必要がなくなったので、カリグラフィの講義で学ぼうと思えたのです。ひげ飾り文字を学び、文字を組み合わせた場合のスペースのあけ方も勉強しました。何がカリグラフィを美しく見せる秘訣なのか会得しました。科学ではとらえきれない伝統的で芸術的な文字の世界のとりこになったのです。

もちろん当時は、これがいずれ何かの役に立つとは考えもしなかった。ところが10年後、最初のマッキントッシュを設計していたとき、カリグラフィの知識が急によみがえってきたのです。

そして、その知識をすべて、マックに注ぎ込みました。美しいフォントを持つ最初のコンピューターの誕生です。もし大学であの講義がなかったら、マックには多様なフォントや字間調整機能も入っていなかったでしょう。ウィンドウズはマックをコピーしただけなので、パソコンにこうした機能が盛り込まれることもなかったでしょう。

もし私が退学を決心していなかったら、あのカリグラフィの講義に潜り込むことはなかったし、パソコンが現在のようなすばらしいフォントを備えることもなかった。もちろん、当時は先々のために点と点をつなげる意識などありませんでした。しかし、いまふり返ると、将来役立つことを大学でしっかり学んでいたわけです。

繰り返しですが、将来をあらかじめ見据えて、点と点をつなぎあわせることなどできません。できるのは、後からつなぎ合わせることだけです。だから、我々はいまやっていることがいずれ人生のどこかでつながって実を結ぶだろうと信じるしかない。

運命、カルマ…、何にせよ我々は何かを信じないとやっていけないのです。私はこのやり方で後悔したことはありません。むしろ、今になって大きな差をもたらしてくれたと思います。

2つ目の話は愛と敗北です。

私は若い頃に大好きなことに出合えて幸運でした。共同創業者のウォズニアックとともに私の両親の家のガレージでアップルを創業したのは二十歳のときでした。それから一生懸命に働き、10年後には売上高20億ドル、社員数4000人を超える会社に成長したのです。

そして我々の最良の商品、マッキントッシュを発売したちょうど1年後、30歳になったときに、私は会社から解雇されたのです。自分で立ち上げた会社から、クビを言い渡されるなんて。

実は会社が成長するのにあわせ、一緒に経営できる有能な人材を外部から招いたのです。最初の1年はうまくいっていたのですが、やがてお互いの将来展望に食い違いがでてきたのです。そして最後には決定的な亀裂が

生まれてしまった。

そのとき、取締役会は彼に味方したのです。それで30歳のとき、私は追い出されたのです。それは周知の事実となりました。私の人生をかけて築いたものが、突然、手中から消えてしまったのです。これは本当にしんどい出来事でした。

1カ月くらいはぼうぜんとしていました。私にバトンを託した先輩の起業家たちを失望させてしまったと落ち込みました。デビッド・パッカーやボブ・ノイスに会い、台無しにしてしまったことをわびました。公然たる大失敗だったので、このまま逃げ出してしまうかとさえ思いました。

しかし、ゆっくりと何か希望がわいてきたのです。自分が打ち込んできたことが、やはり大好きだったので。アップルでのつらい出来事があっても、この一点だけは変わらなかった。会社を追われはしましたが、もう一度挑戦しようと思えるようになったのです。

そのときは気づきませんでしたが、アップルから追い出されたことは、人生でもっとも幸運な出来事だったのです。将来に対する確証は持てなくなりましたが、会社を発展させるという重圧は、もう一度挑戦者になるという身軽さにとってかわりました。アップルを離れたことで、私は人生でもっとも創造的な時期を迎えることができたのです。

その後の5年間に、NeXTという会社を起業し、ピクサーも立ち上げました。そして妻になるすばらしい女性と巡り合えたのです。ピクサーは世界初のコンピューターを使ったアニメーション映画「トイ・ストーリー」を製作することになり、今では世界でもっとも成功したアニメ製作会社になりました。

そして、思いがけないことに、アップルがNeXTを買収し、私はアップルに舞い戻ることになりました。いまや、NeXTで開発した技術はアップルで進むルネサンスの中核となっています。そして、ロレーンとともに最高の家族も築けたのです。

アップルを追われなかったら、今の私は無かったでしょう。非常に苦い薬でしたが、私にはそういうつらい経験が必要だったのでしょう。最悪のできごとに見舞われても、信念を失わないこと。

自分の仕事を愛してやまなかったからこそ、前進し続けられたのです。皆さんも大好きなことを見つけてください。仕事でも恋愛でも同じです。仕事は人生の一大事です。やりがいを感じることができるただ一つの方法は、すばらしい仕事だと心底思えることをやることです。

そして偉大なことをやり抜くただ一つの道は、仕事を愛することでしょう。好きなことがまだ見つからないなら、探し続けてください。決して立ち止まってははいけません。本当にやりたいことが見つかった時には、不思議と自分でもすぐに分かるはずですよ。すばらしい恋愛と同じように、時間がたつごとによくなっていくものです。だから、探し続けてください。絶対に、立ち尽くしてはいけません。

3つ目の話は死についてです。

私は17歳のときに「毎日をそれが人生最後の日だと思って生きれば、その通りになる」という言葉にどこか

で出会ったのです。それは印象に残る言葉で、その日を境に 33 年間、私は毎朝、鏡に映る自分に問いかけるようにしているのです。

「もし今日が最後の日だとしても、今からやろうとしていたことをするだろうか」と。「違う」という答えが何日も続くようなら、ちょっと生き方を見直せということです。

自分はまもなく死ぬという認識が、重大な決断を下すときに一番役立つのです。なぜなら、永遠の希望やプライド、失敗する不安…これらはほとんどすべて、死の前には何の意味もなさなくなるからです。本当に大切なことしか残らない。自分は死ぬのだと思い出すことが、敗北する不安にとらわれない最良の方法です。我々はみんな最初から裸です。自分の心に従わない理由はないのです。

1 年前、私はがんと診断されました。朝 7 時半に診断装置にかけられ、膵臓（すいぞう）に明白な腫瘍が見つかったのです。私は膵臓が何なのかさえ知らなかった。医者はほとんど治癒の見込みがないがんで、もっても半年だろうと告げたのです。医者からは自宅に戻り身辺整理をするように言われました。つまり、死に備えろという意味です。

これは子どもたちに今後 10 年かけて伝えようとしていたことを、たった数カ月で語らなければならないということです。家族が安心して暮らせるように、すべてのことをきちんと片付けなければならない。別れを告げなさい、と言われたのです。

一日中診断結果のことを考えました。その日の午後に生検を受けました。のどから入れられた内視鏡が、胃を通過して腸に達しました。膵臓に針を刺し、腫瘍細胞を採取しました。鎮痛剤を飲んでいたので分からなかったのですが、細胞を顕微鏡で調べた医師たちが騒ぎ出したと妻がいうのです。手術で治療可能なきわめてまれな膵臓がんと分かったからでした。

人生で死にもっとも近づいたひとときでした。今後の何十年かはこうしたことが起こらないことを願っています。このような経験をしたからこそ、死というものがあなた方にとっても便利で大切な概念だと自信をもっていえます。

誰も死にたくない。天国に行きたいと思っている人間でさえ、死んでそこにたどり着きたいとは思わないでしょう。死は我々全員の行き先です。死から逃れた人間は一人もいない。それは、あるべき姿なのです。

死はたぶん、生命の最高の発明です。それは生物を進化させる担い手。古いものを取り去り、新しいものを生み出す。今、あなた方は新しい存在ですが、いずれは年老いて、消えゆくのです。深刻な話で申し訳ないですが、真実です。

あなた方の時間は限られています。だから、本意でない人生を生きて時間を無駄にしないでください。ドグマにとらわれてはいけません。それは他人の考えに従って生きることと同じです。

他人の考えに溺れるあまり、あなた方の内なる声がかき消されないように。そして何より大事なものは、自分の心と直感に従う勇気を持つことです。あなた方の心や直感は、自分が本当は何をしたいのかも知っているはず。ほかのことは二の次で構わないのです。

私が若いころ、全地球カタログ（The Whole Earth Catalog）というすばらしい本に巡り合いました。私の世代の聖書のような本でした。スチュワート・ブランドというメンロパークに住む男性の作品で、詩的なタッチで躍動感がありました。

パソコンやデスクトップ出版が普及する前の 1960 年代の作品で、すべてタイプライターとハサミ、ポラロイドカメラで作られていた。言ってみれば、グーグルのペーパーバック版です。グーグルの登場より 35 年も前に書かれたのです。理想主義的で、すばらしい考えで満ちあふれていました。

スチュワートと彼の仲間は全地球カタログを何度か発行し、一通りやり尽くしたあとに最終版を出しました。70 年代半ばで、私はちょうどあなた方と同じ年頃でした。背表紙には早朝の田舎道の写真が。あなたが冒険好きなら、ヒッチハイクをする時に目にするような風景です。その写真の下には「ハングリーなままであれ。愚かなままであれ」と書いてありました。筆者の別れの挨拶でした。ハングリーであれ。愚か者であれ。私自身、いつもそうありたいと思っています。

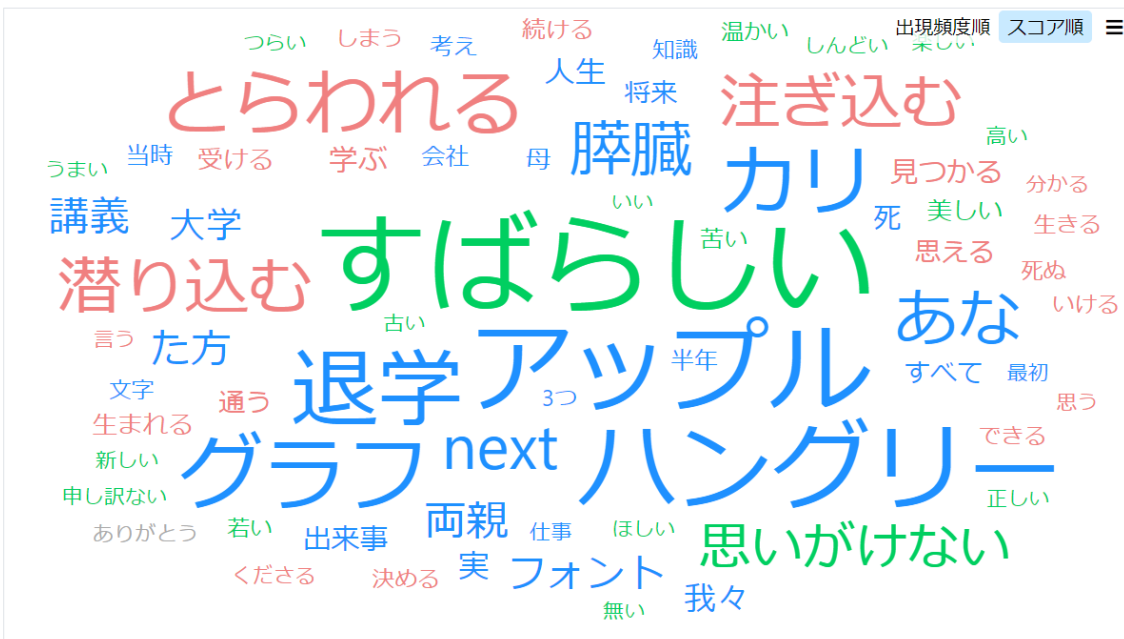
そして今、卒業して新たな人生を踏み出すあなた方にもそうあってほしい。

ハングリーであれ。愚か者であれ。

ありがとうございました。”

ワードクラウド

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示しています。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



単語出現頻度

文章中出现する単語の頻度を表にしています。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であることを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなりますが、「言う」や「思う」など、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになります。

[【スコアの目的と算出方法について】](#)

単語の出現頻度をダウンロード ▾

名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度
人生	1.53	12	できる	0.10	9
大学	2.15	11	しまう	0.10	8
アップル	12.80	8	思う	0.04	8
あな	6.51	7	死ぬ	0.13	6
た方	2.79	7	くださる	0.05	5
会社	0.50	7	見つかる	0.37	4
グラフ	10.02	6	思える	0.30	4
カリ	9.09	6	受ける	0.21	4
両親	2.91	6	続ける	0.16	4
死	1.03	6	生きる	0.11	4
母	0.72	6	いける	0.07	4
退学	10.43	5	分かる	0.06	4
講義	2.77	5	言う	0.01	4
我々	1.78	5	潜り込む	2.33	3
すべて	0.91	5	学ぶ	0.47	3

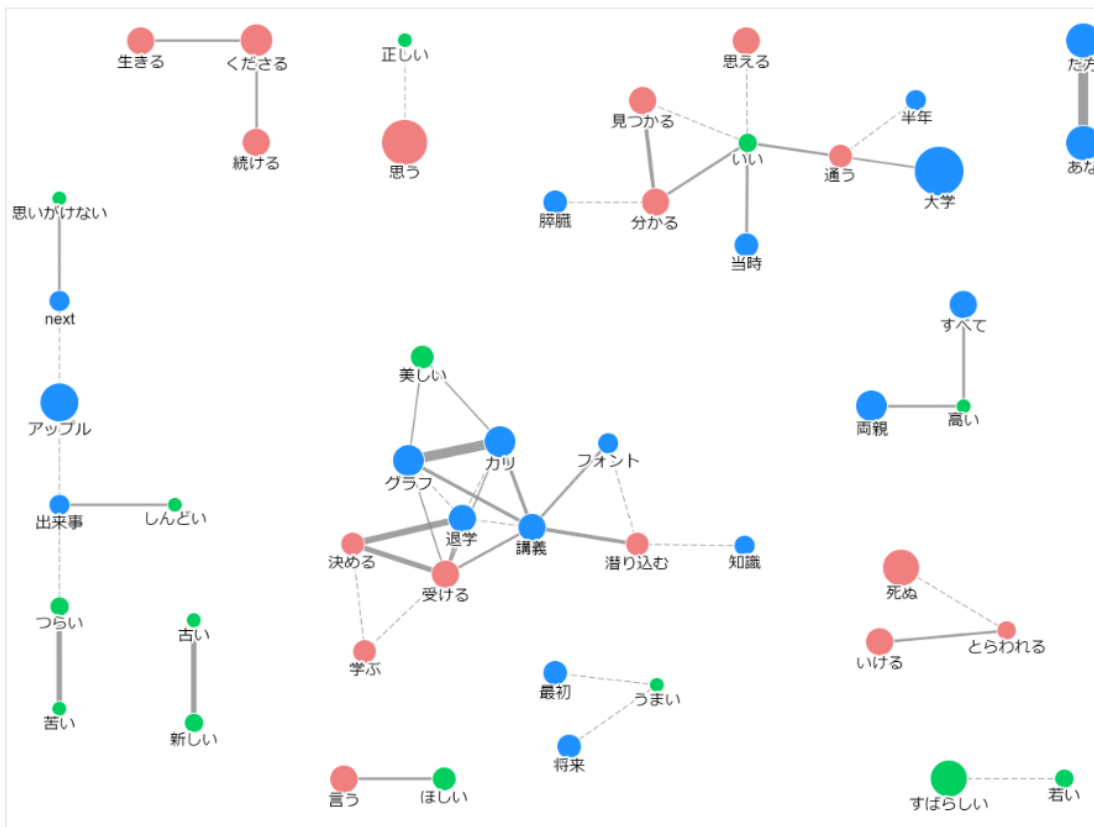
本例における AI 分析では、「カリ」「グラフ」が別個で処理されているが、本来は「カリグラフ」である。AI (artificial intelligence) は人間の成長と同じく、経験値を積むことにより思考精度を高めているが、初期段階で実装されるアルゴリズムにはエラーを導く要素が含まれる。翻訳ソフトウェアであれば、ディクテーションを繰り返すことで精度を高めればよいが、自動運転を実装するクルマでは、あらゆるリスクに対応可能なアルゴリズムが最初期から求められる。

■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
すばらしい	5.20	6	ありがとう	0.00	1
美しい	0.23	3	---	---	---
ほしい	0.03	3	---	---	---
若い	0.09	2	---	---	---
つらい	0.04	2	---	---	---
新しい	0.03	2	---	---	---
いい	0.00	2	---	---	---
思いがけない	1.68	1	---	---	---
苦い	0.17	1	---	---	---
温かい	0.10	1	---	---	---
古い	0.05	1	---	---	---
正しい	0.05	1	---	---	---
申し訳ない	0.02	1	---	---	---
うまい	0.01	1	---	---	---
しんどい	0.01	1	---	---	---

共起キーワード

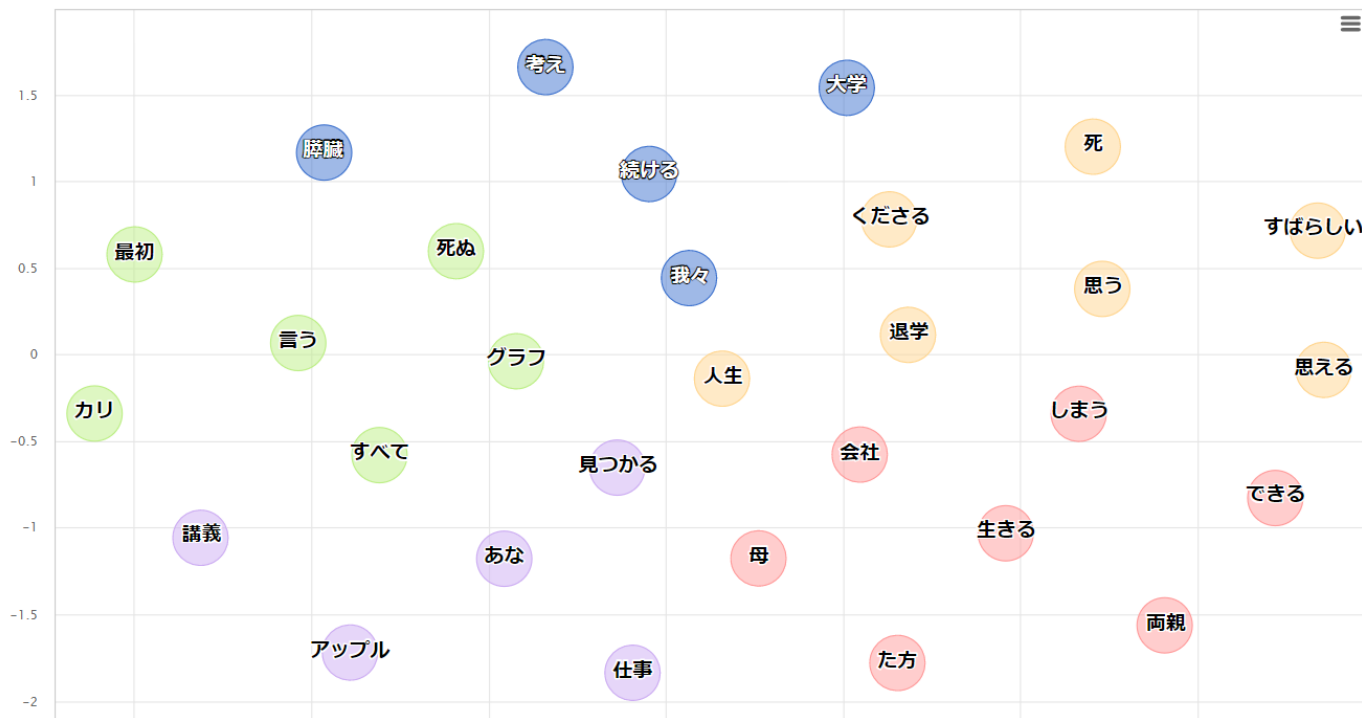
文章中出现する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図です。出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されます。【共起とは?】

共起回数をダウンロード ▾



2次元マップ

文章中での出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置されています。距離が近い単語はグループにまとめ、色分けしています。 [【2次元マップの詳細説明】](#)



係り受け解析

係り受け解析では、「名詞」に係る「形容詞」「動詞」「名詞」についての解析結果を表示します。「スコア」は、出現回数やその係り受け関係が全組み合わせのうち占める割合などを複合的に判断し、独自に算出した数値です。「スコア」が高いほど、よりその係り受け関係が重要であることを示します。また、単語の後に「(否: 50%)」などとなっている場合、集計された係り受け関係のうち50%が否定表現(例:「高い」→「高くない」)として使われていることを意味しています。ネガポジは名詞にかかる形容詞がポジティブ(ネガティブ)な単語かどうかを表しています。 [【係り受け解析とは?】](#)

(結果の表示に時間がかかる場合があります)

■ 名詞 - ■ 形容詞

名詞 - 形容詞	ネガポジ	スコア	出現頻度
スタンフォード - 高い	中立	1.00	1
学費 - 高い	中立	1.00	1
もっとも - 正しい	ポジティブ	1.00	1
非常 - 苦い	ネガティブ	1.00	1
人生 - いい	ネガティブ	0.67	1
とはいえ - いい	ネガティブ	0.67	1
女の子 - ほしい	ネガティブ	0.50	1
あなた - ほしい	ネガティブ	0.50	1
た方 - ほしい	ネガティブ	0.50	1

■ 名詞 - ■ 動詞

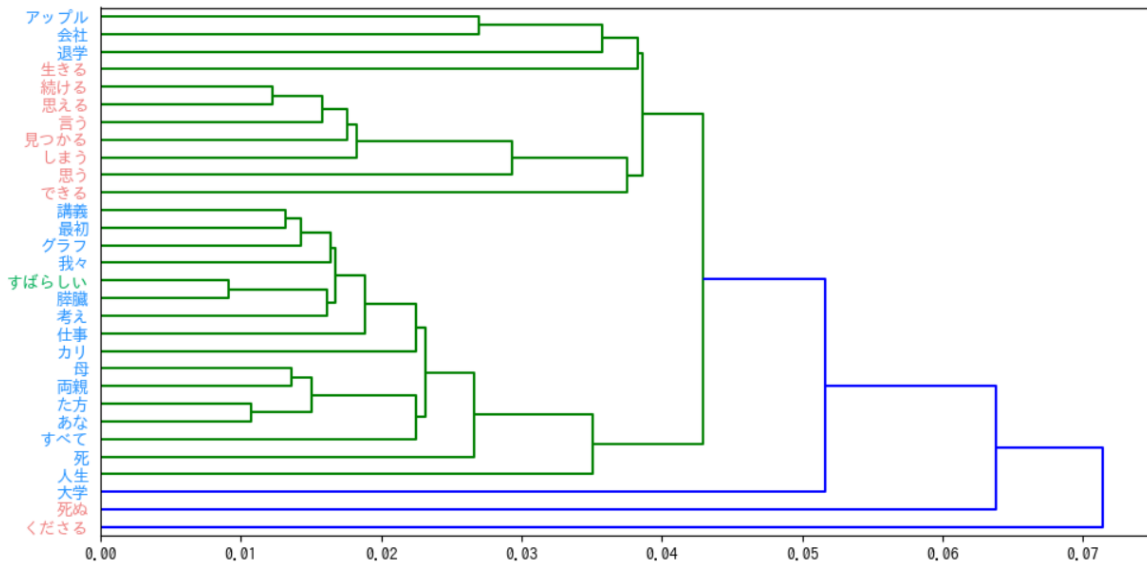
名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
大学 - 通う	3.00	3
退学 - 決める	3.00	3
必要 - なくなる	2.00	2
授業 - 受ける	1.20	2
大学 - 居座る	1.00	1
卒業 - 踏み出す	1.00	1
実 - 結ぶ	1.00	1
人生 - 築く	1.00	1
人生 - 踏み出す	1.00	1
退学 - 居座る	1.00	1
学校 - 去る	1.00	1
学校 - やめる	1.00	1
母 - 決まる	1.00	1
母 - 応じる	1.00	1
夫婦 - だす	1.00	1

■ 名詞 - ■ 名詞

名詞 - 名詞	スコア	出現頻度
カリ - 講義	2.00	3
グラフ - 講義	2.00	3
会社 - 成長	2.00	2
心 - 直感	2.00	2
他人 - 考え	1.20	2
生み - 母	0.86	2
世界 - 優秀	1.00	1
世界 - とりこ	1.00	1
世界 - 成功	1.00	1
大学 - 卒業式	1.00	1
卒業式 - 同席	1.00	1
同席 - 光栄	1.00	1
人生 - 創造	1.00	1
人生 - 一日	1.00	1
母 - 大学院生	1.00	1

階層的クラスタリング

文章中での出現傾向が似た単語をまとまりとしてとらえられるよう樹形図で表したものです。グループは色分けして表示しています。【[階層的クラスタリングの詳細い説明](#)】



[本項目トップへ戻る](#)

(J) バイデン大統領就任演説

ロバーツ連邦最高裁長官、ハリス副大統領、ペロシ下院議長、シューマー上院院内総務、マコネル上院院内総務、ペンス（前）副大統領、ご来賓の皆さん、そして米国民の皆さん。今日は米国の日だ。民主主義の日だ。歴史と希望、再生と決意の日だ。長年にわたって米国は、新たな試練を受け、苦難に立ち向かってきた。

私たちが今日祝うのは候補者の勝利ではなく、大義、すなわち民主主義の大義だ。国民の意思が聞き入れられ、考慮されたのだ。

民主主義がかけがえのないものであることを、私たちは新たに学んだ。民主主義とは、もろいものだ。そして皆さん、民主主義は今この時をもって、勝利した。

この聖なる地ではほんの何日か前、連邦議事堂の土台を揺さぶる暴力が起きた。だからこそ今、権力の平和的な移譲を実現するため、神の下で、不可分な一つの国民として団結する。それは200年以上にわたって続けてきたことだ。

私たちは米国らしい独特のやり方で将来を展望する。つまり、休み知らずの大胆かつ楽観的なやり方で、実現できるし実現しなくてはいけない国の姿を見据えるのだ。

この場に來ている両党の大統領経験者の皆さんに謝意を申し上げたい。心の底から感謝したい。

あなた方は米国憲法の堅固さと私たちの国の強さをご存じだ。そのことはカーター（元）大統領もよく知っている。今日は出席していないが、私は昨夜、カーター氏と話した。私たちは彼の生涯にわたる奉仕に敬意を表する。

私はたった今、ジョージ・ワシントン以来の愛国心にあふれた歴代の前任者たちと同じように、神聖な宣誓を行った。

だが米国の物語を決めるのは、私たちのだれか一人でもないし、何人かでもない。私たち全員なのだ。

決めるのは、より完全な連邦を求める「私たち国民」だ。この国は偉大であり、私たち国民は善良だ。

何世紀にもわたったこれまでの道のりは、嵐もあれば争いもあり、平和と戦争を経てきた。私たちの行く先はまだ遠い。

私たちは素早さと緊迫感をもって前に進む。危険もあれば可能性もあるこの冬にやらなければならないことは多いからだ。

修復、回復、癒やしのためにやらなくてはいけないことがたくさんある。築き、手に入れるためにしなくてはいけないことも多いのだ。

この国の歴史で、今ほど試練や困難に満ちた時代はあまりない。100年に1度のウイルスが静かに広がっている。ウイルスは1年で、米国が第2次大戦全体で失ったのに匹敵する命を奪った。何百万の雇用が失われた。何十万の企業が閉鎖された。

約400年かけて根を張ってきた人種間平等を求める声が我が国を動かしている。すべての人に正義をもたらすという夢の実現をもうこれ以上遅らせてはならない。

地球そのものから、生存を訴える悲鳴が上がっている。これ以上に悲壮であからさまな声というのはないだろう。

そして私たちは今こそ、台頭する政治的過激主義や白人至上主義、国内テロに立ち向かい、打倒しなければならない。これらの課題を克服し、米国の魂を再生し、米国の未来を確かなものにするには、言葉だけでは足りない。民主主義で一番もろいもの、つまり団結が求められるのだ。団結だ。

ワシントンで1月のある日、すなわち1863年の元日、エイブラハム・リンカーンは奴隷解放宣言に署名した。この大統領はペンを執ると、「もし私の名が歴史に刻まれるとすれば、それはこの行為によるものとなるだろうし、私はこのために全霊をささげる」と言った。「私はこのために全霊をささげる」と。

今日、1月のこの日、私が全霊をささげるのは次のことだ。米国を一つにし、国民を団結させ、この国を結束させることだ。

私は、すべての国民にこの大義に加わることを求める。共通の敵と戦うために団結するのだ。それは、怒りであり、恨みであり、憎しみであり、過激主義、無法状態、暴力であり、疾病、失業、絶望だ。

団結すれば私たちは偉大なことを成し遂げられる。重要なことを達成できる。

私たちは過ちを正すことができる。私たちは人々を良い仕事に就かせることができる。私たちは安全な学校で子どもたちに教えることができる。私たちは、死を招くウイルスを克服できる。私たちは仕事に報い、中産階級を再建し、すべての人に医療を確保できる。私たちは人種間平等を実現し、再び米国を、世界に善をもたらす指導力のある国にすることができる。

今日では、団結を唱えることを愚かな幻想と感じる人がいることを、私は知っている。私たちを分断する力は強く、現実にあることを知っている。だが私は、それらが何ら目新しいことではないことも知っている。

我が国の歴史は、私たちが皆平等に創造されたという米国の理想と、人種差別や移民排斥主義、恐怖、悪者のレッテル貼りが私たちを分裂させてきたという過酷で醜い現実との間の、絶え間ない闘いだった。闘いはいつまでも続き、勝利は決して保証されない。

南北戦争、大恐慌、世界大戦、米同時テロを経ながらも、闘争や犠牲、挫折を経験しながらも、常に、私たちの良心が最終的な勝利を収めてきた。それぞれの瞬間において、私たち全員が前進できるようにするため、十分な数の人々が団結してきたのだ。そうしたことを今、私たちは実行できる。歴史と信仰、理性が道、すなわち団結の道を示してくれる。

私たちは互いを敵ではなく、隣人とみなすことができる。尊厳と尊敬心を持って互いに接することができる。力を合わせ、声高に叫ぶのを止め、緊張を緩めることができる。というのも、団結がなければ平和はなく、苦しみと怒りしか残らないからだ。進歩はなく、人々を消耗させるような憤激しか残らない。国は失われ、混沌（こんとん）しか残らなくなる。

今は我が国にとって、歴史的な危機と困難の時だ。団結こそが前進を可能にする道だ。私たちがアメリカ合衆国として時代の要請に応えなければならない。そうすれば間違いなく、失敗することはない。私たちが協力して行動して失敗したことなど、米国では決して、一度たりともなかった。

だから今日この時、この場所で、私たち全員が新たな出発を切るのだ。再び互いの声に耳を傾けることを始めよう。互いの声を聞き、理解し、敬意を払おう。

政治が、行く手のすべてを焼き尽くす、たけり狂う炎である必要はない。一つ一つの意見の違いのせいで全面戦争を戦う必要はない。事実をねじ曲げたり、でっち上げたりするような文化を私たちは拒まなくてはいけない。

米国民の皆さん、私たちはこんなことではあってはならない。もっとよくできるはずだ。米国はもっとよくできるのだ。

私は全ての米国民の大統領になる

辺りを見渡してみよう。ここに影をさしかけている、先ほど述べた連邦議事堂のドームは、合衆国が存続の分かれ目にあつた南北戦争の真っ最中に建設された。だが私たちは持ちこたえ、うまくやってきた。

私たちは今、キング牧師が夢を語つたこの偉大なナショナルモールの前にいる。ここは、108年前の就任式で、投票権を求める勇気ある女性たちの行進を阻もうと、何千もの反対派の人々が集まつた場所でもある。今日、米史上初の女性副大統領としてカマラ・ハリスが宣誓就任した。変われないとは言わないでほしい。

ポトマック川の対岸のアーリントン国立墓地では、死力を尽くして戦つた英雄たちが永眠についている。ほんの数日前、暴徒たちは、暴力で人々の意志を押しつぶし、私たちの民主主義の歩みを止めさせ、この神聖な場所から私たちを追い出そうと考えた。そんなことは起きなかつた。これからも決して起こさせない。今日も、明日も、永遠にだ。

選挙で私たちを支持してくれた人たち全員の信頼を謙虚に受け止めている。そして支持してくれなかつた人たちに対しても言いたい。私たちが前進していく中で、私たちに耳を傾けてほしい。私と私の心を見極めてほしい。

それでも意見が合わないなら、それでもいい。それが民主主義だ。それが米国だ。共和国の枠内で平和的に反対する権利は、恐らく、この国の最大の強みだ。それでもはっきり言いたい。意見の不一致を分断につなげてはいけない。そして私は誓う。私は全ての米国民の大統領になる。私を支持してくれなかつた人たちに対しても、支持してくれた人たちに対するのと同じだけ骨を折る。

何世紀も昔、私が属する教会の聖人である聖アウグスティヌスは、人々は愛を注ぐ共通の対象によって特徴付けられると説いた。米国民が愛し、米国民を特徴付ける共通の対象とは何だろう。私たちはわかっていると私は

思う。それは機会、安全、自由、尊厳、尊敬、名誉であり、そしてもちろん真実だ。

ここ数週間、数か月で、私たちは苦々しい教訓を学んだ。真実があれば、ウソがあるということだ。権力と利益のためにウソが語られた。そして私たち一人ひとりが市民として、米国人として、とりわけ憲法を敬い、国を守ると約束した指導者として、真実を守り、ウソを打ち砕く義務と責任がある。

多くの米国民が将来について恐れやおびえを感じていることを理解している。私の父がそうだったように、彼らが夜に床に就き、天井を見つめ、「医療を受けられるだろうか」「住宅ローンを支払えるだろうか」と思いを巡らせ、家族のことや、これから起きることについて考えているということ、理解している。私はよくわかっていると約束する。

だが解決策は、内向きになって、党派対立に引きこもってしまうことではない。外見や礼拝の仕方が違うからとか、ニュースを同じ情報源から得ていないといった理由で、相手に不信の念を抱くことではない。

赤に対して青、地方に対して都市、保守に対してリベラルを対抗させる、不作法な戦争に終止符を打たなければならない。それは、私たちがかたくなな態度を改めて、胸襟を開けばできる。わずかな寛容さと謙虚さを持ち、私の母がよく言っていたように、少しの間、他人の立場を思いやる意思を持てばできる。

というのも、人生とは、どんな運命が待っているのかはわからないものだからだ。手助けが必要な日もあれば、手を貸してほしいと頼まれる日もあるだろう。それが自然なあり方だ。それこそが、私たちが互いに行うべきことなのだ。そうすれば、私たちの国はより強く、より豊かになり、未来への準備ももっと整う。そうした中で、私たちの間に同意できないことがあってもよいのだ。

米国民の皆さん、私たちはこれから仕事を進めていく上で、互いを必要とする。この暗い冬は全力を出さなければ耐え抜けない。新型コロナウイルスとの戦いで、これから私たちが迎える日々は、最も手ごわく命を脅かされるものになるかもしれない。政治を脇に置いて、遅ればせながらも国が一丸となって、この世界的大流行に向き合わなくてはならない。

聖書も言う通り、こう約束したい。夕べは涙のうちに過ごしても、朝には喜びの歌がある。私たちは力を合わせて切り抜けていく。力を合わせるのだ。

私たちは同盟関係を修復し、再び世界に関与する

下院や上院で一緒に働いた同僚の皆さん、世界は今、私たちのことを見ている。だから私は、世界の人々にメッセージを送る。米国は試練を乗り越え、一層強くなった。

私たちは同盟関係を修復し、再び世界に関与する。それは、昨日の試練に向き合うためだけでなく、今日そして明日の試練に立ち向かうためだ。私たちは力の見本としてだけでなく、模範の力を示すことによって、先導する。

私たちは平和と進歩、安全保障のための強力で信頼されるパートナーになる。

私たちは米国内であまりに多くのことを経験してきた。大統領としての最初の行動として、静かな祈りへの参加をお願いしたい。新型コロナウイルスのためにこの1年に亡くなったすべての人々をしのぶためだ。40万人の米国民だ。それは母や父であり、夫や妻、息子や娘であり、友人、隣人、同僚たちだ。

私たちは、私たちにとってあるべき国民と国の姿を実現することで、彼らへの敬意を示す。

命を落とした人々、のこされた人々、そして私たちの国のために黙とうをささげよう。アーメン。

今は試練の時だ。私たちは民主主義と真実に対する攻撃に直面している。猛威をふるうウイルス。拡大する格差。組織的な人種差別。気候の危機。世界における米国の役割。どれ一つとっても、私たちを根底から揺さぶるほどの課題だ。実際のところ私たちは、これらすべてに同時に直面している。そのため米国は、かつてないほど重大な責務を突きつけられている。

私たちは踏み出さなくてはいけない。私たち全員がだ。なすべきことがあまりに多く、大胆さが求められている。確かなのは、この時代の私たちが、つまりあなた方も私も、次から次へと起きる危機をいかに解決したかによって、裁かれるということだ。

その時々、ふわさしい対処ができるのか。めったにない困難なときを乗り切れるのか。責務を果たし、子どもたちにより良い新しい世界を引き継げるか。

そうしなければならないし、私たちはそうする。そうすると信じている。

そうしながら私たちは、米国の歴史に次の偉大な章を加えることになる。米国の物語だ。

私にとってかけがえのないある歌のような響きを持つ物語だ。

「アメリカ賛歌 (アメリカン・アンセム)」という歌で、私にとって特別に意味がある一節がある。

「何世紀に及ぶ努力と祈りにより、今の私たちがいる。私たちは何を残すだろう。子どもたちは何と言うだろう。私の時代が終わるとき、心の中で教えてほしい。アメリカ、アメリカ。私は最善を尽くした」

それに加えよう。

私たちの偉大な国の物語に、私たち自身の努力と祈りを加えよう。

そうすれば、私たちの時代が終わる時、子どもたちとその子どもたちが、私たちのことを言うだろう。

最善を尽くして、義務を果たし、壊れかけた国を癒やしたのだと。

米国民の皆さん、神と皆さん全員に対する神聖な誓いと共に、はじめに立ち返り、今日の言葉を締めくくりたい。

私は、いつも皆さんに対して素直に振る舞う。私は憲法を守る。私は私たちの民主主義を守る。私は米国を守る。私は権力でなく可能性を第一に、皆さんのために全力を尽くす。個人の利益でなく、公共の幸福を考える。

そして、恐れではなく希望の、分断ではなく団結の、闇ではなく光の米国の物語を皆さんと一緒につむごうではないか。礼節と尊厳の、愛と癒やしの、偉大さと善良さの米国の物語だ。

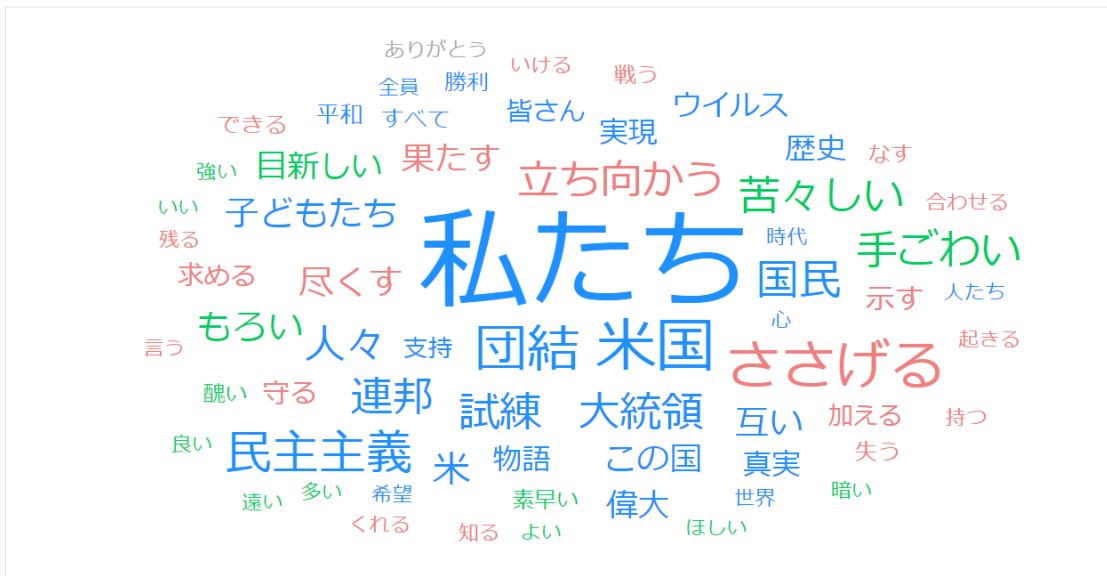
この物語が私たちを導き、私たちに希望を与えてくれるだろう。その物語を通して、私たちは歴史の呼び声に答えた、後の時代に評価されるだろう。私たちはなすべきことをなすべきときに果たしたのだと。民主主義と希望、真実と正義が私たちの目の前で死に絶えることはなく、むしろ栄えた。私たちは国内で自由を守り、もう一度、世界のかがり火になった。それこそが、私たちが祖先に対して、またお互いに対して、そしてこれからの世代に対して負っている義務だ。

私たちは目的と決意を持って、今日直面する仕事に取りかかる。信念が支えとなり、確信に導かれる。私たちが心の底から愛するこの国、および相互への献身がよりどころとなる。

神のご加護がありますように。私たちの軍を神がお守りくださりますように。米国よ、ありがとう。

ワードクラウド

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示しています。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



単語出現頻度

文章中出现する単語の頻出度を表にしています。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなりますが、「言う」や「思う」など、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになります。

[【スコアの目的と算出方法について】](#)

単語の出現頻度をダウンロード

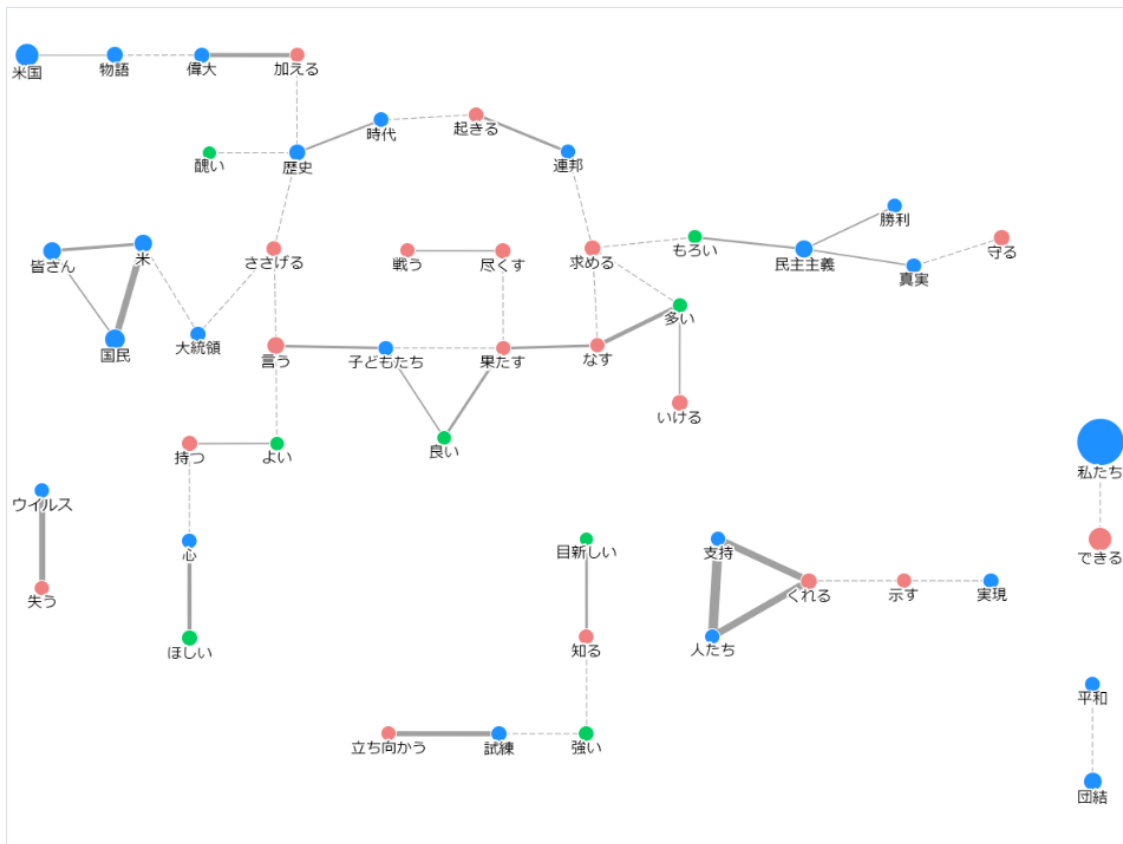
■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
私たち	190.63	81	できる	0.46	19
米国	57.08	24	言う	0.05	8
国民	12.86	17	守る	0.97	6
団結	40.08	12	求める	0.82	6
米	6.46	12	いける	0.16	6
皆さん	2.25	12	くれる	0.04	6
民主主義	22.68	11	尽くす	1.93	5
人々	10.04	10	持つ	0.07	5
歴史	3.83	8	ささげる	15.55	4
物語	3.38	8	起きる	0.06	4
世界	0.47	7	知る	0.04	4
大統領	8.97	6	立ち向かう	3.51	3
試練	7.71	6	果たす	1.67	3
偉大	4.12	6	示す	1.11	3
実現	3.07	6	加える	0.62	3

形容詞	スコア	出現頻度	感動詞	スコア	出現頻度
ほしい	0.08	5	ありがとう	0.00	1
強い	0.07	4	---	---	---
多い	0.03	3	---	---	---
もろい	2.00	2	---	---	---
よい	0.01	2	---	---	---
良い	0.01	2	---	---	---
苦々しい	3.46	1	---	---	---
手ごわい	2.68	1	---	---	---
目新しい	1.48	1	---	---	---
素早い	0.35	1	---	---	---
醜い	0.33	1	---	---	---
暗い	0.05	1	---	---	---
遠い	0.02	1	---	---	---
いい	0.00	1	---	---	---
---	---	---	---	---	---

共起キーワード

文章中出现する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図です。出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されます。【共起とは?】

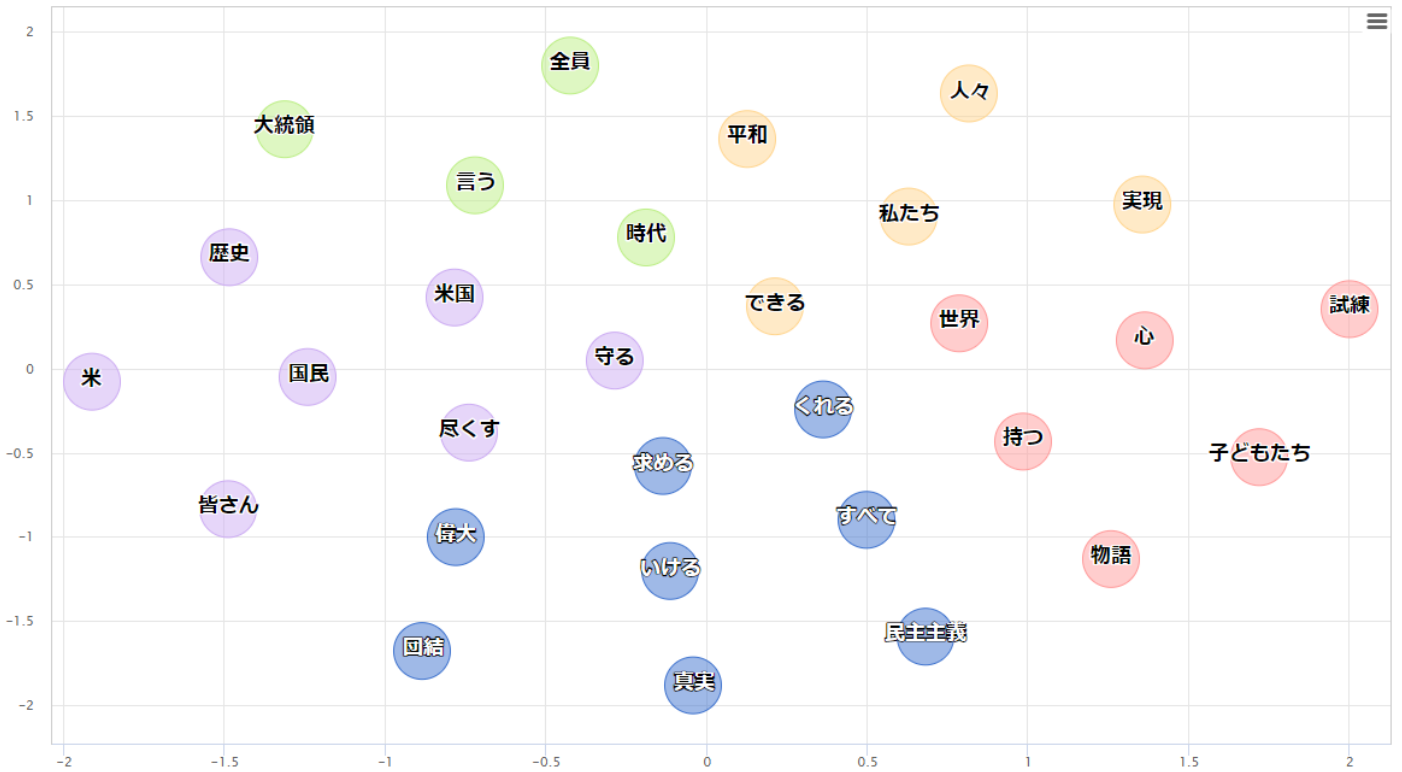
共起回数をダウンロード



単語ペア	単語1	単語2	共起回数
できる 私たち	できる	私たち	11
国民 米	国民	米	11
私たち 米国	私たち	米国	9
民主主義 私たち	民主主義	私たち	7
物語 私たち	物語	私たち	6
国民 私たち	国民	私たち	6
偉大 私たち	偉大	私たち	6
人々 私たち	人々	私たち	6
私たち 私たち	私たち	私たち	6
くれる 人たち	くれる	人たち	6
くれる 支持	くれる	支持	6
人たち 支持	人たち	支持	6
全員 私たち	全員	私たち	5
世界 私たち	世界	私たち	5
物語 米国	物語	米国	4
仕事 私たち	仕事	私たち	4
歴史 私たち	歴史	私たち	4
国民 皆さん	国民	皆さん	4
皆さん 米	皆さん	米	4
いく 私たち	いく	私たち	4
守る 私たち	守る	私たち	4
できる 実現	できる	実現	3
姿 実現	姿	実現	3
強い 私たち	強い	私たち	3
敬意 私たち	敬意	私たち	3
主義 私たち	主義	私たち	3
ささげる 全霊	ささげる	全霊	3
子どもたち 私たち	子どもたち	私たち	3
実現 私たち	実現	私たち	3
平等 私たち	平等	私たち	3
現実 私たち	現実	私たち	3
私たち 米	私たち	米	3
前進 私たち	前進	私たち	3
できる 持つ	できる	持つ	3
時代 私たち	時代	私たち	3
場所 私たち	場所	私たち	3
皆さん 私たち	皆さん	私たち	3
くれる 私たち	くれる	私たち	3
守る 憲法	守る	憲法	3
真実 私たち	真実	私たち	3
示す 私たち	示す	私たち	3
とる 私たち	とる	私たち	3
直面 私たち	直面	私たち	3
加える 私たち	加える	私たち	3
努力 私たち	努力	私たち	3
祈り 私たち	祈り	私たち	3
子どもたち 言う	子どもたち	言う	3
希望 私たち	希望	私たち	3

2次元マップ

文章中での出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置されています。距離が近い単語はグループにまとめ、色分けしています。【2次元マップの詳しい説明】



係り受け解析

係り受け解析では、「名詞」に係る「形容詞」「動詞」「名詞」についての解析結果を表示します。「スコア」は、出現回数やその係り受け関係が全組み合わせのうちに占める割合などを複合的に判断し、独自に算出した数値です。「スコア」が高いほど、よりその係り受け関係が重要であることを示します。また、単語の後に「(否: 50%)」などとなっている場合、集計された係り受け関係のうち50%が否定表現(例:「高い」→「高くない」)として使われていることを意味しています。ネガボジは名詞にかかる形容詞がポジティブ(ネガティブ)な単語かどうかを表しています。【係り受け解析とは?】

(結果の表示に時間がかかる場合があります)

■ 名詞 - ■ 形容詞

名詞 - 形容詞	ネガボジ	スコア	出現頻度
それら - 目新しい	ポジティブ	1.00	1
過酷 - 醜い	ネガティブ	1.00	1
米国 - 強い	中立	0.40	1
堅固 - 強い	中立	0.40	1
私たち - ほしい	ネガティブ	0.33	1
心 - ほしい	ネガティブ	0.33	1
耳 - ほしい	ネガティブ	0.33	1

さらに係り受け解析結果を表示する

■ 名詞 - ■ 動詞

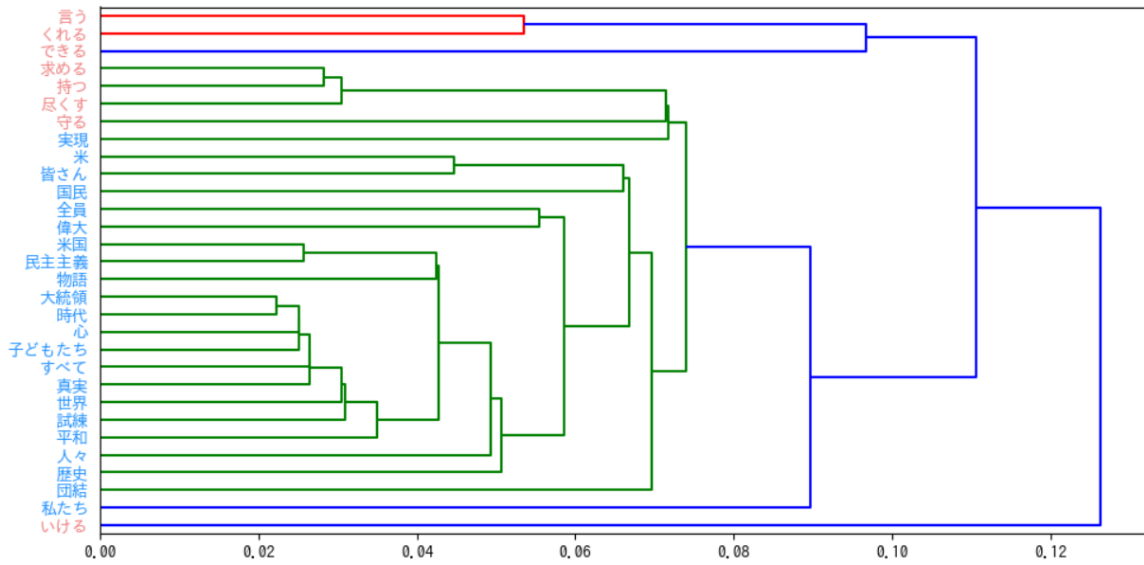
名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
私たち - できる	5.50	10
全霊 - ささげる	2.40	3
私たち - 学ぶ	2.00	2
耳 - 傾ける	2.00	2
私たち - いく	1.50	2
最善 - 尽くす	1.00	2
私たち - いける (否: 100.00%)	0.86	2 (否: 2)
私たち - くれる	0.86	2
子どもたち - 言う	0.67	2
上院 - 働く	1.00	1
皆さん - 申し上げる	1.00	1
皆さん - 見る	1.00	1
皆さん - 締めくくる	1.00	1
皆さん - 振る舞う	1.00	1
米 - 愛す	1.00	1

■ 名詞 - ■ 名詞

名詞 - 名詞	スコア	出現頻度
支持 - 人たち	4.00	4
米国 - 物語	2.22	4
米 - 皆さん	1.54	4
国民 - 皆さん	1.54	4
私たち - 関与	2.00	2
心 - 底	2.00	2
修復 - 関与	2.00	2
世界 - 関与	2.00	2
尊厳 - 尊敬	2.00	2
共通 - 対象	2.00	2
下院 - 上院	1.50	2
私たち - 前進	1.50	2
私たち - 直面	1.50	2
同盟関係 - 修復	1.50	2
努力 - 祈り	1.50	2

階層的クラスタリング

文章中での出現傾向が似た単語をまとまりとしてとらえられるよう樹形図で表したものです。グループは色分けして表示しています。【階層的クラスタリングの詳細説明】



[本項目トップへ戻る](#)

(D) トランプ大統領就任演説

ロバーツ最高裁判所長官、カーター元大統領、クリントン元大統領、ブッシュ元大統領、オバマ大統領、そしてアメリカ国民の皆さん、世界の皆さん、ありがとう。

私たちアメリカ国民は今、素晴らしい国家的な努力に参加し、国を再建して、すべての人のために約束を果たします。私たちは共に、アメリカの、そして、世界の歩む道を決めるのです。これから歩む長い道です。私たちは課題に直面するでしょう。さまざまな困難にも直面するでしょう。しかし、その仕事をやり遂げます。

4年ごとに、私たちはこうした道のりのために集まり、秩序だって速やかに政権を移行します。この政権移行を快く支えてくれたオバマ大統領とミシェル・オバマ大統領夫人に感謝します。素晴らしい人たちです。ありがとうございます。

本日の式典には、とても特別な意味があります。なぜなら、ひとつの政権から別の政権へ、または、ひとつの政党から別の政党へ、単なる政権交代をしているわけではなく、ワシントン D.C.から国民である皆さんへ、政権を取り戻しているからです。

あまりにも長い間、ワシントンにいる一部の人たちだけが、政府から利益や恩恵を受けてきました。その代償を払ったのは国民です。ワシントンは繁栄しましたが、国民はその富を共有できませんでした。政治家は潤いましたが、職は失われ、工場は閉鎖されました。権力層は自分たちを守りましたが、アメリカ市民を守りませんでした。彼らの勝利は、皆さんの勝利ではありませんでした。彼らは首都ワシントンで祝福しましたが、アメリカ全土で苦しんでいる家族への祝福は、ほとんどありませんでした。

すべての変革は、この場所から始まります。今、ここで始まっているのです。なぜなら、この瞬間は皆さんの瞬間だからです。皆さんのものです。今日、ここに集まっている皆さん、アメリカ中でこれを見ている皆さんのものです。今日という日は、皆さんの1日なのです。これは皆さんの式典です。そして、このアメリカ合衆国は、皆さんの国なのです。

本当に大切なことは、どの党が政権を握るかということではなく、政府が国民により統治されることです。2017年1月20日は、国民がこの国の治める日として、これからずっと記憶に刻まれるでしょう。この国の忘れ去られた人々は、もう忘れ去られることはありません。誰もが皆さんに耳を傾けています。何千万の人々が、歴史的な運動に参加しています。

今まで世界が見たことのない動きが起きています。この動向の中心にあるのは、とても強い信念です。それは、国は国民に奉仕するために存在しているということです。アメリカ国民は、子供たちのために素晴らしい学校を望んでいます。また、家族のために安全を、自分自身のために良い仕事を望んでいます。正しい人々、そして、正しい国民がそう望むのは正当で、当然のことです。

しかし、多くの市民には、異なる現実が存在しています。母親と子供は都市部で貧困に苦しみ、工場は錆びき、アメリカ中に墓石のごとく散らばっています。教育は高額で、若く輝かしい生徒たちは、知識を習得できていま

せん。犯罪、ギャング、麻薬があまりにも多くの命を奪い、花開くことのない可能性をこの国から奪っています。

こうしたアメリカの殺戮は、今ここで終わります。今、ここです。

私たちはひとつの国家であり、彼らの痛みは、私たちの痛みです。彼らの夢は、私たちの夢です。そして、彼らの成功は、私たちの成功です。私たちは、ひとつの心、ひとつの故郷、ひとつの輝きに満ちた運命を共有しています。今日、私がした就任の誓いは、すべてのアメリカ国民の忠誠の誓いです。

何十年もの間、私たちはアメリカの産業を犠牲にし、外国の産業を豊かにしてきました。他の国々の軍隊を援助してきました。一方で、アメリカの軍隊は、悲しくも枯渇しています。私たちは他の国の国境を守っていますが、自分たちの国境を守るのを拒んでいます。海外に数兆ドルを投資しましたが、アメリカのインフラは絶望に陥り、腐っています。他の国々を豊かにしましたが、自国の富、力、自信は、地平線のかなたへ消えて行きました。ひとつずつ、工場が閉鎖され、この国を去りました。数百万人のアメリカ人労働者が置き去りになることなど考えもしないで、そうしたのです。中間層の富が、その家庭から奪われ、世界中に再分配されました。

しかし、それは過去です。今、私たちは未来だけを見据えています。私たちは今日、ここに集まり、新しい決意を発し、すべての街、すべての外国の首都、すべての政権にそれを響かせます。今日、この日から始まります。新しいビジョンがアメリカを治めるでしょう。今日、この日から、アメリカ第一のみになります。アメリカ第一です。

貿易、税金、移民、外交についてのすべての決定は、アメリカの労働者と家族の利益のために下されます。他国の暴挙から国境を守らなければなりません。彼らは私たちの商品を生産し、私たちの会社を盗み、私たちの仕事を破壊しています。保護こそが偉大な繁栄と力に繋がるのです。

私は全力で皆さんのために戦います。決して失望させません。アメリカは再び勝利します。これまでにない勝利です。雇用を取り戻し、国境を回復し、富を取り戻し、そして、夢を取り戻します。このすばらしい国の隅々に新しい道路、橋、空港、トンネル、鉄道を建設します。生活保護を受けている人たちに仕事を与え、アメリカの労働者の手と力で国を再建します。

私たちは2つの単純なルールに従います。アメリカ製の商品を買い、アメリカ人を雇うことです。世界の国々と友好的な善意の関係を築きますが、すべての国には自国の利益を優先させる権利があることを理解した上で、そうします。私たちは自分たちの生き方をすべての人に押し付けることはしませんが、模範として輝やかせたいと思っています。私たちはすべての人が追随するような輝きを放つでしょう。私たちは古い同盟関係を強化し、新たなものを形づくりします。イスラム過激派のテロに対し世界を結束させ、地球上から完全に根絶させます。

私たちの政治の基盤は、アメリカ合衆国への完全な忠誠心です。国への忠誠を通し、私たちはお互いへの忠誠を再発見するでしょう。愛国心に心を開けば、偏見など持たないはずで、聖書はこう教えています。神の民が一体となって暮らすのは、何と素晴らしく喜ばしいことでしょう、と。私たちは隠さずに思っていることを語り、相違について討論しますが、いつも団結を求めなければなりません。アメリカが団結すれば、誰もアメリカを止めることはできません。

恐れることはありません。私たちは守られています。そして、私たちはこの先も守られるでしょう。私たちは

軍や法執行機関の素晴らしい人たちに守られています。そして、最も大切なのは、神により守られていることです。

最後に、私たちは大きく考え、さらに大きな夢をみなければなりません。アメリカで、私たちは分かっていると思うのですが、国家は、努力してこそ存続するのです。口ばかりで行動が伴わない政治家をこれ以上受け入れることはできません。彼らは文句ばかり言って、何もしていません。意味のないお喋りは終わりを迎える時です。

今、行動の時が来ています。それはできない、と言うのはやめましょう。どんな課題も、心を開き、戦い、アメリカの精神を持てば、乗り越えられます。失敗することはありません。私たちの国は再び繁栄し、栄えるでしょう。

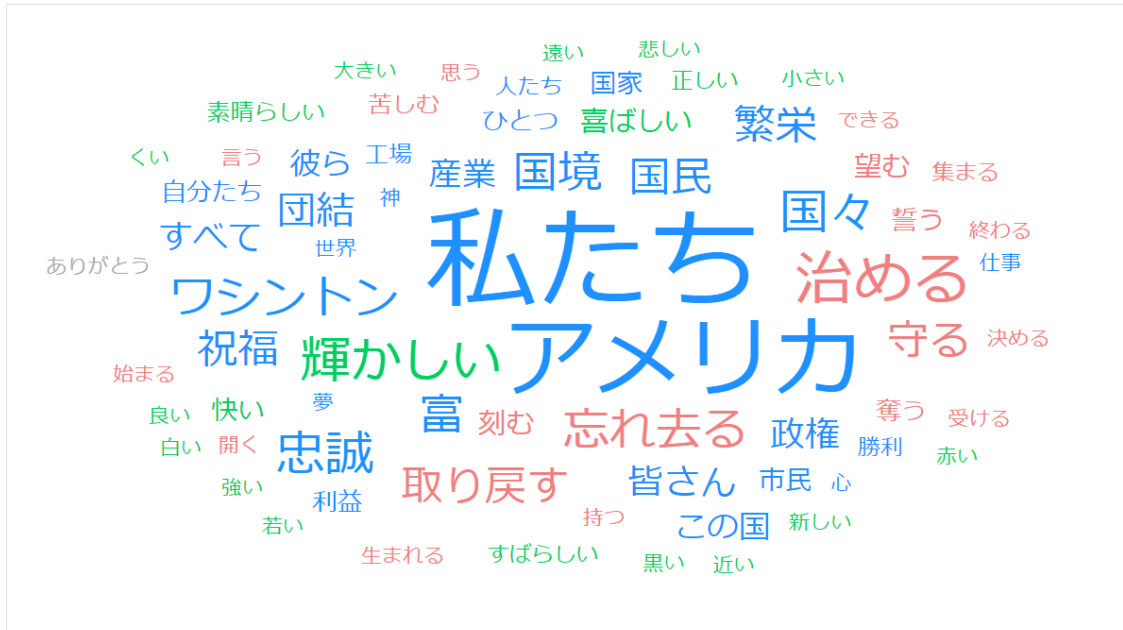
私たちは、新しい時代の誕生に立ち会っています。宇宙の神秘を解き明かし、地球上から病気の苦しみを失くし、未来の産業とテクノロジーを利用する準備をしています。新しいアメリカの誇りは、私たちの魂を揺さぶり、視野を高め、分断を埋めるでしょう。今こそ、思い出す時です。兵士が永遠に心に刻む知恵です。黒い肌、褐色の肌、白い肌、誰であろうと、同じ愛国心の赤い血が流れています。私たちは同じ輝かしい自由を享受しています。みんな同じ偉大な星条旗に忠誠を誓っているのです。子供がデトロイトの都市部で生まれようと、ネブラスカの風の吹く平原で生まれようと、同じ夜空を見上げ、同じ夢を心に抱き、同じ全知全能の創造主によって生命の息吹が吹き込まれます。

ですから、アメリカ国民の皆さん、すべての街に住んでいる市民の皆さん、それが近くても、遠くても、小さくても、大きくても、山から山まで、海から海まで、この言葉を聞いてください。皆さんは再び無視されることは決してありません。皆さんの声、希望、夢が、アメリカの歩む道を決めるのです。そして、皆さんの勇気、善意、愛が、その道を永遠に照らすのです。

一致団結して、私たちはアメリカを再び強い国にします。アメリカを再び富める国にします。アメリカを再び誇り高い国にします。アメリカを再び安全な国にします。そうです。ともに力を合わせ、アメリカを再び偉大な国にします。ありがとうございます。皆さんに神の祝福がありますように。そして、アメリカに神の祝福がありますように。ありがとうございます。アメリカに神の祝福あれ。

ワードクラウド

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示しています。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



単語出現頻度

文章中に出現する単語の頻出度を表にしています。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなりますが、「言う」や「思う」など、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低くなります。

[【スコアの目的と算出方法について】](#)

単語の出現頻度をダウンロード ▼

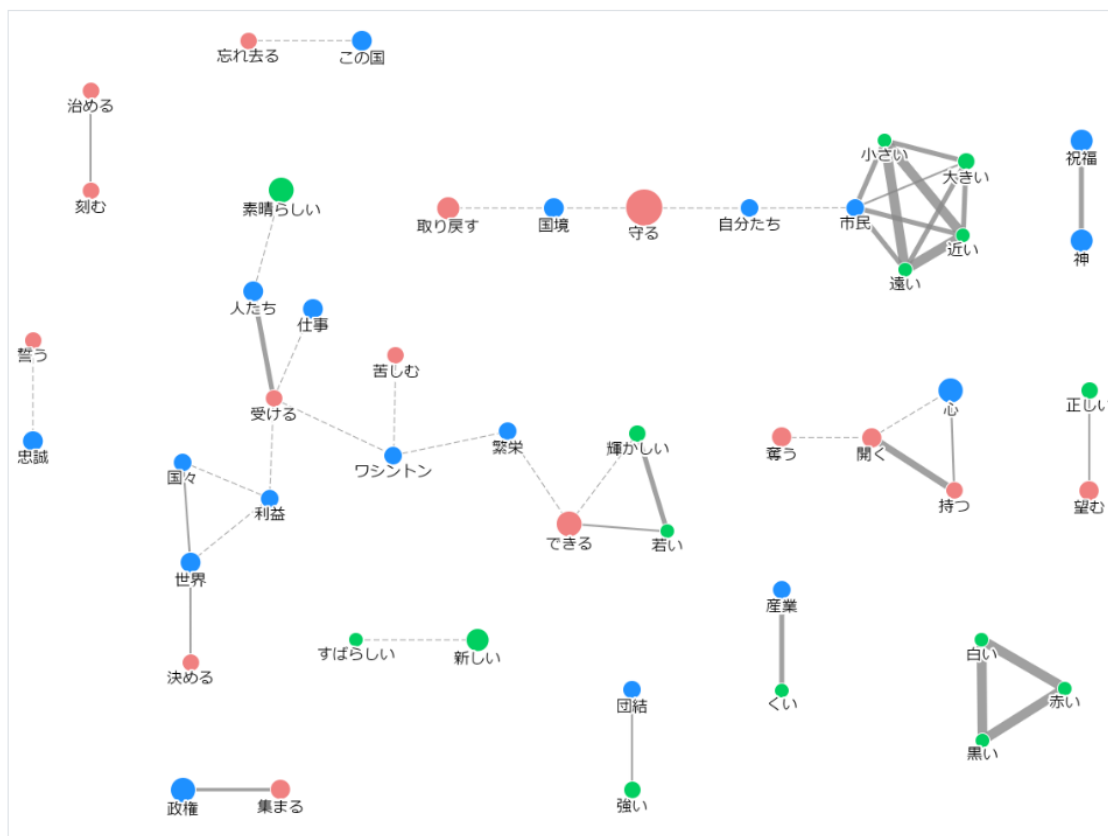
名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度
私たち	46.84	33	守る	2.13	9
アメリカ	34.53	32	できる	0.03	5
皆さん	4.41	17	取り戻す	2.07	4
国民	5.86	11	望む	0.81	3
すべて	4.11	11	奪う	0.54	3
彼ら	3.09	7	集まる	0.26	3
ひとつ	1.54	7	開く	0.13	3
政権	4.07	6	始まる	0.08	3
夢	0.31	6	思う	0.01	3
心	0.24	6	治める	5.64	2
祝福	5.83	5	忘れ去る	3.04	2
神	0.27	5	刻む	0.72	2
忠誠	10.46	4	誓う	0.65	2
国境	7.81	4	苦しむ	0.40	2
富	7.71	4	生まれる	0.10	2

形容詞	スコア	出現頻度	感動詞	スコア	出現頻度
素晴らしい	0.34	5	ありがとう	0.01	3
新しい	0.13	4	---	---	---
輝かしい	4.05	2	---	---	---
正しい	0.18	2	---	---	---
大きい	0.04	2	---	---	---
強い	0.02	2	---	---	---
喜ばしい	0.72	1	---	---	---
快い	0.66	1	---	---	---
すばらしい	0.19	1	---	---	---
黒い	0.05	1	---	---	---
白い	0.05	1	---	---	---
赤い	0.04	1	---	---	---
若い	0.02	1	---	---	---
くい	0.02	1	---	---	---
遠い	0.02	1	---	---	---

共起キーワード

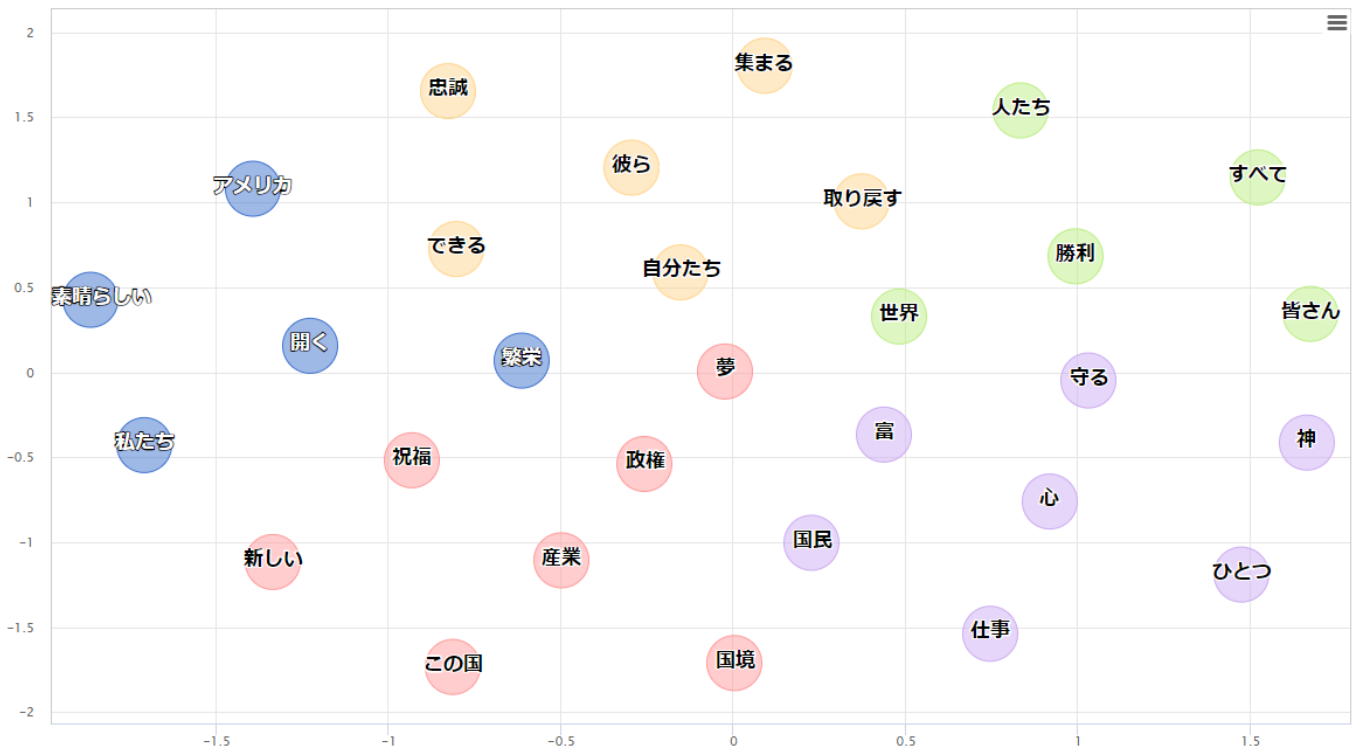
文章中出现する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図です。出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太線で描画されます。【共起とは?】

共起回数をダウンロード ▾



2次元マップ

文章中での出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置されています。距離が近い単語はグループにまとめ、色分けしています。【2次元マップの詳細説明】



係り受け解析

係り受け解析では、「名詞」に係る「形容詞」「動詞」「名詞」についての解析結果を表示します。「スコア」は、出現回数やその係り受け関係が全組み合わせのうちに占める割合などを複合的に判断し、独自に算出した数値です。「スコア」が高いほど、よりその係り受け関係が重要であることを示します。また、単語の後に「(否: 50%)」などとなっている場合、集計された係り受け関係のうち50%が否定表現（例：「高い」→「高くない」）として使われていることを意味しています。ネガポジは名詞にかかる形容詞がポジティブ（ネガティブ）な単語かどうかを表しています。【係り受け解析とは?】

(結果の表示に時間がかかる場合があります)

■ 名詞 - ■ 形容詞

名詞 - 形容詞	ネガポジ	スコア	出現頻度
愛国心 - 赤い	ネガティブ	1.00	1
失 - くい	ネガティブ	1.00	1

■ 名詞 - ■ 動詞

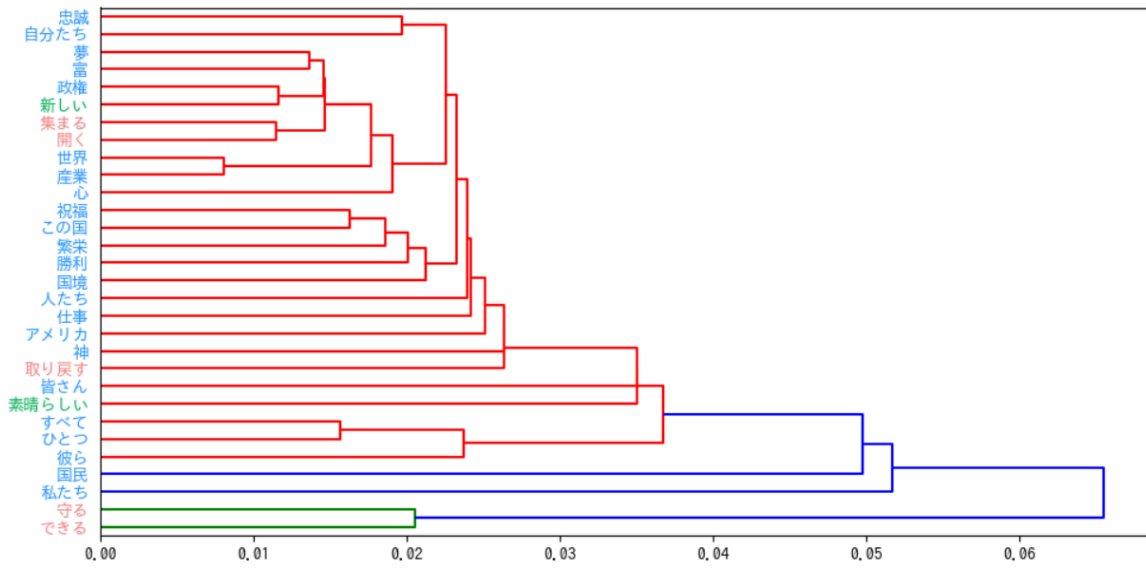
名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
私たち - 守る	2.00	4
政権 - 取り戻す	2.40	3
国境 - 守る (否: 33.33%)	1.20	3 (否: 1)
歩 - 決める	2.00	2
む道 - 決める	2.00	2
私たち - 集まる	1.50	2
国民 - 望む	1.50	2
心 - 開く	1.50	2
私たち - 果たす	1.00	1
私たち - 見据える	1.00	1
私たち - 従う	1.00	1
私たち - 放つ	1.00	1
私たち - 形づくる	1.00	1
私たち - 考える	1.00	1
私たち - 分かる	1.00	1

■ 名詞 - ■ 名詞

名詞 - 名詞	スコア	出現頻度
神 - 祝福	2.00	3
アメリカ - 歩	2.00	2
アメリカ - む道	2.00	2
工場 - 閉鎖	2.00	2
肌 - 肌	1.50	2
国民 - 皆さん	0.33	2
私たち - 会社	1.00	1
私たち - 政治	1.00	1
私たち - 発見	1.00	1
私たち - 討論	1.00	1
私たち - 魂	1.00	1
私たち - 享受	1.00	1
アメリカ - 殺戮	1.00	1
アメリカ - 忠誠の誓い	1.00	1
アメリカ - インフラ	1.00	1

階層的クラスタリング

文章中での出現傾向が似た単語をまとまりとしてとらえられるよう樹形図で表したものです。グループは色分けして表示しています。【[階層的クラスタリングの詳細説明](#)】



[本項目トップへ戻る](#)